

4. 図書館経費

4.1 図書館経費（資料費・人件費）

費目 大学	図書館資料費（A）				比 (A/D)	人件費（B）			比 (B/D)	その他 運営経費 (C)	比 (C/D)	図書館 運営経費 (B+C)	図書館総 経費（D） (A+B+C)
	図書	雑誌	その他	合計		職員 総給与	賃 謝 金	金 合計					
岐阜大学	千円	千円	千円	千円	%	千円	千円	千円	%	千円	%	千円	千円
本館	72,485	85,662	7,784	165,931	50.6	119,566	8,223	127,789	38.9	34,575	10.5	162,364	328,295
医学部分館	13,384	38,936	1,353	53,673	58.1	13,919	8,867	22,786	24.6	15,955	17.3	38,741	92,414
計	85,869	124,598	9,137	219,604	52.2	133,485	17,090	150,575	35.8	50,530	12.0	201,105	420,709
国立大学A平均	297,008	378,252	50,658	725,918	46.5	526,827	115,674	642,501	41.2	192,260	12.3	834,762	1,560,679
国立大学B平均	102,229	141,738	16,696	260,664	49.2	172,313	33,052	206,365	38.9	63,230	11.9	268,595	529,259
国立大学C平均	62,322	75,027	8,997	146,345	48.1	98,867	18,672	117,539	38.6	40,303	13.3	157,842	304,187
国立大学D平均	30,896	34,108	7,927	72,931	41.6	70,595	6,910	77,505	44.2	24,845	14.2	102,350	175,280
計平均	92,166	115,783	16,137	224,086	46.6	164,650	31,159	195,810	40.7	61,077	12.7	256,887	480,973
公立大学平均	42,328	27,499	6,765	76,593	44.3	48,805	4,999	53,803	31.1	42,656	24.6	96,459	173,052
私立大学平均	58,083	36,514	10,068	104,665	39.3	99,236	10,086	109,323	41.1	52,187	19.6	161,509	266,174
総平均	62,251	48,894	10,762	121,906	41.6	105,270	13,116	118,386	40.4	52,746	18.0	171,132	293,038

1. 図書館資料費・人件費は、国立大学B平均より少ないが、規模からみると普通と考えられる。
ただし、人件費は、年齢により給与が異なるため、比較が難しい。
2. 図書館資料費は、図書館総経費に対する比率が国立大学全体からみて高い。
3. その他運営経費（C）には、運営費（図書館委員会）の外、電子計算機借料、旅費等の校費以外の経費及び一般設備費等の事項指定経費が含まれているため、単純に比較できない。

4.2 附属図書館運営費決算額（平成8年度）

（運営費（図書館委員会））

事 項	予 算 額	決 算 額	差 引 過 不 足 額	備 考
維持費	千円	千円	千円	
備品費	952	625	327	雑誌架・ビデオキャビネット・留学生用書架
消耗品費	1,618	1,335	283	事務用品・図書整理用品
印刷費	1,722	1,714	8	図書館報・利用案内・図書館概要等
通信運搬費	924	1,029	105	郵送料・電話料等
光熱水料	12,283	12,484	201	電気料・ガス料・水道料
物品修繕費	607	516	91	入退館装置・無停電装置・ワープロ等修理
人件費	17,000	17,090	90	非常勤職員・1か月未満雇用職員
雑役務費	2,885	2,903	18	エレベータ・冷暖房機・消防用設備点検等
電算機使用料負担額	1,119	1,445	326	総合情報処理センター・事務用電算機使用分
大学共通経費負担額	625	594	31	図書館負担分
小 計	39,735	39,735	0	
事業費				
図書費	5,564	5,564	0	参考図書・基本図書・諸法規追録・定期刊行物等
製本費	5,309	5,309	0	集中化雑誌・寄贈雑誌
図書整備費	1,376	1,376	0	高速ファクシミリ・図書修理等
電子的情報資料費	1,792	1,792	0	CD-ROM関係
資料保存費	471	471	0	小志きふフォト化・ナフタリンペーパー等
小 計	14,152	14,152	0	
合 計	54,247	54,247	0	

（備考）予算額は，当初予算から節約額を控除した金額を計上した。

4.3 附属図書館費用の分析

平成8年度は、学生7,018人、教官763人、職員822人(1.1(2)参照)。

(1) 図書館総経費420,709千円の1人当たり単価概数

図書館総経費	学生当たり	教官当たり	職員当たり
420,709千円	59,950円	551,390円	511,810円

(2) 図書資料費219,604千円の1人当たり単価概数

図書資料費	学生当たり	教官当たり	職員当たり
219,604千円	31,290円	287,820円	267,160円

(3) 運営費(図書館委員会)費用54,247千円の1人当たり単価概数

運営費(図書館委員会)	学生当たり	教官当たり	職員当たり
54,247千円	7,730円	71,100円	65,990円

(4) 学生用図書経費

学生基本図書費、学生用図書推薦枠(文部省配分)など含めた経費総額は10,118千円である。

学生用図書費	学生当たり	教官当たり	職員当たり
10,118千円	1,440円	13,260円	12,310円

4.4 岐阜大学附属図書館経費の課題

種々の課題を順序立てず、列挙すると次のような課題がある。

(1) 図書館経費の限度・適切な規模の設定

* 図書館資料費の殆どは、教官が研究費枠内で購入されるものであるが、学生用図書などは図書館委員会と資料選定委員会で審議している。文部省から交付される、このための経費が最近年々減少していること及びその図書資料内容の魅力あるものにすること、等への対処を吟味・検討する必要がある。

* 学内合意が得られる予算はいかほどが良いかは、永遠の課題かも知れないが、昨今の予算縮減の時代背景の中では研究課題である。

(2) 施設の狭隘化への対応： 抜本策の必要性

* 増改築を前提にして、「新規の書架増設、視聴覚コーナーの拡充、空調設備の整備(場所的不整改善)、電子化への対応施設の整備など」を辛抱しているが、蔵書が積層して開架せざるを得ない状況にあるため、抜本的に書架の収容能力を強化する方策を研究する必要がある。

* 国家公務員数10~20%削減という内閣方針の下では、総合情報処理センターとの統合的な組織的改革が必要との見方があり、このような趣旨で改善が図りうるか研究する必要がある。

(3) 運営費(図書館委員会)に占める人件費・光熱費の抑制

- *事務の合理化は、第5章の職員のところでも触れられるが、極度に推進されてきていて、図書館では逆に非常勤・賃金職員を採用せねばならない状況下であるので、解決策の見えにくい課題であるが、各大学共通的なものであり、国立大学附属図書館協議会など他大学情報も収集しながら事務的に研究を継続する。
- *光熱費は施設建物との関係で決まる要素が高く、改善工事だけでは高価・割高になるために低減の実現が難しい。増改築時にはこの観点からの配慮をすべく、またそれまでも種々の改善工夫を検討する姿勢が必要である。
- *各学部でも図書関係費用の捻出に腐心している現状にあるが、大学併設校的な組織の医療技術短期学部は別途図書管理費(非常勤2名用、約150万円/年)を工面して運営する財政的困難さが背景にあることを意識しておく必要がある。

(4) 「図書館職員」職員用の旅費枠

- *大学事務職員には旅費が認められていないが、「図書館職員」は変化著しい「情報探索学」の専門的業務推進のために「研修、サービス活動」のためにも十分な旅費枠を文部省本省は設定して欲しいと考える(国立大学附属図書館協議会・要望書参照)。現在は、学内全学部に私的に支援していただいている状況にある。

(5) 電子図書館化のための経費予算

- *CD-ROM等の最小限の電子的情報資料は運営費(図書館委員会)で収集してきているが、過不足の検討が十分ではない面がある。
- *平成9年度から「遡及入力」業務等経費として運営費(図書館委員会)に1,000千円/年を計上し推進し始め、平成10年度には学長裁量経費からも948千円が追加的に認められた。
- *ほかに必要な「電子的情報資料」の整備に対して、学術分野の違いも考慮しつつ、推進策を研究していく必要がある。現時点では、社会的供給環境等を睨みつつ、経済的な手法を探索する必要がある。
- *館蔵資料の保存観点だけでなく、活用の観点からも、館蔵資料の分析・整理を進めて、電子化の必要性を判断していくことが肝要。

(6) 「その他運営経費」など

本報告書に使用する「運営費(図書館委員会)」が附属図書館委員会で審議されるものであるのに対して、4.1に集計される「その他運営経費」は電子計算機借料などのほかに、附属図書館が運営上必要とする経費を予算要求して大学本部の配慮・ご尽力により認められたものが含まれている。この趣旨に沿って平成8年度に認められたものを「その他運営経費」に限定せず列挙すると、次のようである。

平成8年度

一般設備費(自動入退館システム)	5,900千円
学長裁量経費(学生基本図書の充実)	9,000千円
外国人留学生教育経費(留学生図書の充実)	1,952千円
教育用特別経費	2,647千円

(CD-ROM 検索装置・人文社会系図書)